

まえがき

『市議会議員の仕事は？』こう聞かれて答えられる市民はどれほどいるでしょうか？

昨今テレビ報道で居眠り議員など不祥事議員の報道ばかりが目につくなか、まともに答えられる方は少ないのではないのでしょうか。

私は現在3期目の千葉市議会議員として働かせていただいています。私も恥ずかしながら、実は議員に立候補を決意するまでは市議会議員の仕事はもちろんのこと、地元の議員についても誰が立候補していたのかも知りませんでした。

私自身もともと、政治に深く関心があつたのかと問われれば答えはNOです。

では、なぜ政治や社会に無関心だった私が政治家を、市議会議員を志したのか、それは2011年の東日本大震災の福島第一原子力発電所事故がきっかけです。

当時私は、都内から千葉市に移住したばかりでした。趣味がボディボードで週末は都内から千葉県の一宮海岸などへ波乗りするのに車を2時間走らせる生活をしていたため、波乗りするのに千葉市へ引越してきたような人間です。

しかし、2011年東日本大震災による福島第一原子力発電所事故という未曾有の事態が発生し、政府やマスコミから発表される情報に対する不信、そして千葉の地にも降り注いだ放射性物質。当時、私の子どもは3歳と1歳であり、子どもたちの健康や命を守るために公園の除染や学校給食の検査など、千葉市に要望したことが、私にとって初めての「声を上げる」というアクションでした。

そののち、なぜ入党したのか詳しくは後述しますが、2013年に日本共産党へ入党し、2014年から千葉市議候補として1年間の活動をスタートし、2014年末に衆議院が解散したことを受け、千葉3区の衆議院議員候補として立候補し落選、その半年後に行われた千葉市議会議員選挙では、64票差の僅差で初当選を果たし、市議会議員としての活動をスタートしました。市議会初質問は小中学校普通教室へのエアコン設置であり、市民の皆さんとの粘り強い運動と一体に進めて、2020年にはすべての普通教室へのエアコン設置を実現しました。

政治とは何か、必要性を感じるまでは、目には見えない空気のようなものであり、自分には関係のないものと思ってきました。

しかし、未曾有の震災を契機に、子どもたちを守りたいと立ち上がり声を上げたことから、政治とは私たちの生活そのものであり、市議会では私たちの暮らしのルールや予算を決めている極めて重要なものであると気づきました。

本著では、かばさわ洋平はなぜ日本共産党という政党を選んだのか。さらに千葉市緑区は23年間も日本共産党の議席が空白という保守的地盤で議席を獲得し、かつ2期8年の活動を通じて、なぜ3期目の選挙でトップ当選を果たせたのか。

市民と一緒にどんな声を上げ政治を動かしてきたのか。

私のこれまでの活動やその時々における考えなどを明らかにして、誰もが生きやすい社会をつくるために日夜奮闘されている皆さんの助けになればと願うと同時に、何より多くの市民に政治を身近に感じてもらえるきっかけになり、『声を上げる』人が一人でも増えて日本社会が良くなっていくことを願っています。